

第 334 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2015 年 9 月 28 日(月) 18 時 00 分~19 時 30 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 角 保徳 氏

(国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センター・センター長)

タイトル: 専用ジェルを用いた口腔ケアの有益性について

近年、継続的な口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎や低栄養の予防ができることが報告され、口腔ケアは単に口腔衛生の予防的手段ではなく、高齢者の QOL の維持向上や全身疾患の改善や健康増進に向けた医療の一環と考えられるようになりました。誤嚥性肺炎予防策として、要介護高齢者に対する口腔ケアを実施した結果、肺炎が予防できたとの報告がある一方で、口腔内細菌が口腔ケアによって気管や肺に入り込むことにつながり、医原性に誤嚥性肺炎を引き起こす可能性が指摘されています。過去の事例を紐解くと、看護師による口腔ケア中の死亡事例の報告や口腔ケア後の死亡事例の多額な損害賠償判決も報告されており、口腔ケア時のリスク管理の必要性が強く示唆されています。

口腔ケア施行時に医原性に誤嚥性肺炎を引き起こす可能性については、口腔ケア時の洗浄水や汚染物の回収が重要なポイントと考えられます。口腔ケアを行っている病院、施設、在宅の多くは、汚染物の口腔外への排出に水を使った口腔ケアを行うことが一般的と考えられます。多くの場合は、スポンジブラシや医療用吸引装置などで除去できますが、水がのどの奥に流れても、患者さんは気が付かない、いわば不顕性誤嚥を起こすことも否定できません。

そのような事態を防ぐ手段のひとつとして、国立長寿医療研究センターでは「誤嚥リスクを低減する、水を使わない口腔ケア」を実施しています。現在の市場で口腔湿潤剤が多く使用されている中で、口腔ケア時に使用されるジェルの特性を検討し、口腔ケアを行う為の適した物性を評価し、口腔ケア専用ジェルを新規に開発しました。

今回のセミナーでは、口腔ケア専用ジェルとして新規に開発した「お口を洗うジェル」の特長や使用方法と、当センターで実施している「誤嚥リスクを低減する、水を使わない口腔ケア」である、専門的口腔ケアの具体的な手法を合わせご紹介させていただきます。